

歴史学研究センター 2007年度第6回公開講座

2007年10月6日(土)



当センター客員研究員

山岸 拓郎 氏

Takuro Yamagishi



麻布中・高等学校教諭

鳥越 泰彦 氏

Yasuhiko Torigoe



当センター研究員

日暮 美奈子 氏

Minako Higurashi

フランス革命と歴史教育

専修大学生田校舎10号館 10102教室

2007年10月6(土)、専修大学生田校舎において、第6回公開講座が開催されました。今回の公開講座は、第2回国際シンポジウム「アジアにおける歴史教育とフランス革命」の成果をさらに発展させるべく、「教育」をキーワードに、山岸拓郎氏(当センター客員研究員)・鳥越泰彦氏(麻布中・高等学校教諭)・日暮美奈子氏(当センター研究員)のお三方に講演していただきました。

山岸氏の講演「フランス革命期の公教育案—『タレーラン報告』の分析を中心に—」では、革命初期の政治家のひとりであるタレーランの報告書の分析から、革命期政策における教育の重要性についてお話していただきました。鳥越氏の講演「歴史教育の中のフランス革命—国際比較から考える—」では、日本とアメリカの教科書内容の比較を通して、両国の歴史教育観についての検討されました。また日暮氏の講演「ドイツの歴史教育とフランス革命—占領期から現在までの中等教育における歴史教科書を中心に—」では、歴史教科書の分析から占領期・東西ドイツ・



統一ドイツにおける教育政策について紹介していただきました(なお詳しい内容は5頁の参加記をご覧ください)。



現在、歴史教育のあり方がたびたびマスコミに取り上げられる中、歴史教育の現状について国内だけでなく、諸外国へも目を向けることの重要性を再認識させられた講演でもありました。

今回も140名余にのぼる多くの方々に参加していただきました。また歴史教育がメインテーマであったことから、多数の現役教職員の方々にもご参加いただき、質疑応答でも積極的にご発言いただきました。

さらに特別展として、当センターが所蔵するアジア・欧米7か国の歴史教科書を展示した「アジア・欧米の歴史教科書とフランス革命」、専修大学図書館が所蔵するベルンシュタイン文庫の一部を展示した「フランス革命の授業に役立つベルンシュタイン史料コレクション」を同時開催いたしました。

(センター任期制助手 小林 風)